

お 知 ら せ

件 名	決定「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2012」！！
-----	----------------------------------

お知らせ内容

シーニックバイウエイ北海道推進協議会では、シーニックバイウエイ北海道の推進に向けて、平成20年度から他の模範となるルート活動であり将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト」の取組を実施しております。

6月24日に開催されたシーニックバイウエイ北海道推進協議会において、「ベスト・シーニックバイウエイズプロジェクト2012」の最優秀賞並びに各賞を決定しましたので、お知らせいたします。なお、今後、ホームページやパンフレットなどで、その活動を広く紹介していく予定です。

記

□最優秀賞（1件）

プロジェクト名 : トカプチまる得めぐり券事業

ル ー ト 名 : トカプチ雄大空間

ル ー ト 代 表 : 野村 文吾（十勝バス（株））

□優秀賞（2件）

プロジェクト名 : 「釧路湿原-阿寒-摩周バリフリツアーリズム」推進体制づくり
（釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウエイ）

プロジェクト名 : 人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト
（大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間、南十勝夢街道（4ルート連携事業））

□ルート審査委員特別賞（1件）

プロジェクト名 : タカラモノプロジェクト（支笏洞爺ニセコルート）

問	所 属	役 職 名	氏 名	電 話 番 号
い	シーニックバイウエイ北海道			
合	推進協議会事務局			
わ	北海道開発局			011-709-2311
せ	開発監理部開発調整課	課長補佐	はらだ ようへい 原田 洋平	(内線 5494)
先	建設部道路計画課	開発専門官	はたけやま あきら 畑山 朗	(内線 5845)

最優秀賞

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2012



トカプチまる得めぐり券事業 (トカプチ雄大空間)

選出理由及び今後の発展に向けての期待

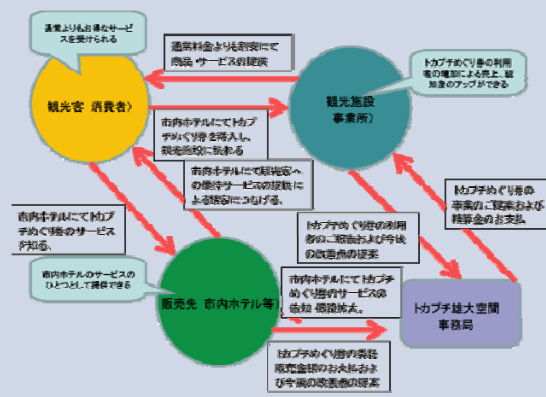
本取組は、本格的な収益型の取組としてシーニック初の試みであること、また、スタートから3年が経過し、着実に販売実績が上がり、しっかりと収益を出している点が非常に評価できる。さらに、この実績により、旅行会社の商品に組み込まれるなど、今後更なる広がりも期待でき、他のルートの見本となる取組である。

活動概要

●トカプチまる得めぐり券



●活動の体制



①活動概要

「トカプチまる得めぐり券」*1)の事業を通じて、トカプチ雄大空間ルート内の観光施設や見どころを「みち」でつなぎ、互いの強みを連携させることから質・量ともにボリュームを上げた情報発信を行うことを目的としている。また「トカプチまる得めぐり券」のお得なサービスを観光のお客さまに売り込み、トカプチ雄大空間のルート内の観光施設を巡ってもらい、ひいては交流人口を増加させ持続可能な経済活動を始める一助とすることを目的としている。<*1)ルート内の施設で利用できる”お得券”>




②活動の効果


今年度で3年目の事業となるトカプチ雄大空間内の施設をお得にめぐる「トカプチまる得めぐり券」(1,200円、2,000円の2種類)を販売した。ルート内の観光施設20箇所、市内ホテル13箇所、観光案内所等8箇所と販売箇所を拡大し、委託販売とともに相互の施設においてPR活動を実施した。

③今後の活動予定等




今年度の結果を受けて、平成25年度は、「とかちガーデンスイーツ温泉チケット」と名称および企画内容を変更する。また、旅行商品に組み込まれさらなる販売促進が期待される。今後も関係施設や旅行エージェントに売り込みを行って定期的な収入になるよう、販売先を広げていく予定である。

優秀賞（2件）

プロジェクト名	「釧路湿原-阿寒-摩周パブリックツーリズム」推進体制づくり
ルート名	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックパイウェイ
選出理由及び今後の発展に向けての期待	本取組は、バリアフリーツーリズムの実現に向け、一步一步着実に取り組んでいる点が評価できる。また、旭川のNPOと連携し、広域的な取組となっている点も評価できる。今後は、継続的に活動できる事業となることを期待したい。
活動概要	平成21年度に実施したWebアンケートの結果を踏まえ、阿寒湖温泉の介護福祉施設や宿泊施設と連携して、障がいのある観光客や高齢の観光客の受入体制づくりを進めている。昨年度は調査員として高齢者を招いたが、今年度は脊椎損傷で車いす生活の女性とそのお母様を調査員として招き、モニター調査を行った。また、地域全体での「おもてなしの環境づくり」に取り組むために、シーニックカフェスタッフや接客業に携わる地域住民を対象とした勉強会を開催した。
取組の様子	<p>●バリアフリーモニター調査の様子</p>   

プロジェクト名	人と未来をつなぐ100年の木プロジェクト
ルート名	4ルート連携事業：大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルート、トカプチ雄大空間、南十勝夢街道
選出理由及び今後の発展に向けての期待	本取組は、これまでにない、4つのルートが連携した広域的な取組で、画期的である。また、道路空間の利活用という点も評価できる。今後は、タイトルの通り息の長い活動を期待したい。
活動概要	北海道観光の道しるべとなる「サインツリー」を、シーニック4ルートと北海道ガーデン街道協議会、地域が一体となって上川～十勝間の幹線道路の沿道に植樹し、道路交通環境の向上を図るとともに、訪れる人々に地域の要所、景観の優れた箇所、並木、花壇や庭園を案内し、おもてなしを行う取り組み。平成24年度は連携、による植樹祭、東京大学 堀教授を講師に迎え勉強会等も開催。
取組の様子	<p>●植樹祭の様子</p>   <p>●植樹木【ヤマナラシ エレクタ】</p> 

ルート審査委員特別賞（1件）

プロジェクト名	タカラモノプロジェクト
ルート名	支笏洞爺ニセコルート
選出理由及び今後の発展に向けての期待	本取組は、地域に自生する野草や捨てられている資源を使い、新たな価値を見出すというアイデアは評価でき、将来が楽しみ。今後、この取組を軌道に乗せ、地域の経済活動活性化に期待したい。
活動概要	支笏湖や洞爺湖で駆除されている ウチダザリガニを食べられないか？という何気ない一言から始まったこのプロジェクト。その後、色々な議論や試行錯誤を経ていくうちに季節の変化とともにどんどん形を変えながら最終的に落ち着いたのが捨てられているものやこれまで見向きもされなかったものに「光」をあてて『地域の宝物☆』として再活用していこうという取り組み。このプロジェクトには、単なる「体験」や「交流」にとどまらずにこれまで捨てられていたモノや見向きもされなかったモノに『光』をあて、「新たな付加価値」をつけようという思いが込められています。
取組の様子	<p>●モニターツアーチラシ</p>  <p>●支笏湖湖上ミーティングの様子</p>  <p>●試作版 ほっちゃんれヒメマス燻製</p> 

シーニックバイウェイ北海道の概要について

シーニックバイウェイ北海道とは

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域住民の方々と行政が連携し、景観をはじめとした地域資源の保全・改善の取組を進めることにより、「美しい景観づくり」「魅力ある観光空間づくり」「活力ある地域づくり」を図るものです。

シーニックバイウェイ北海道の主な取組



シーニックバイウェイ北海道推進協議会の役割

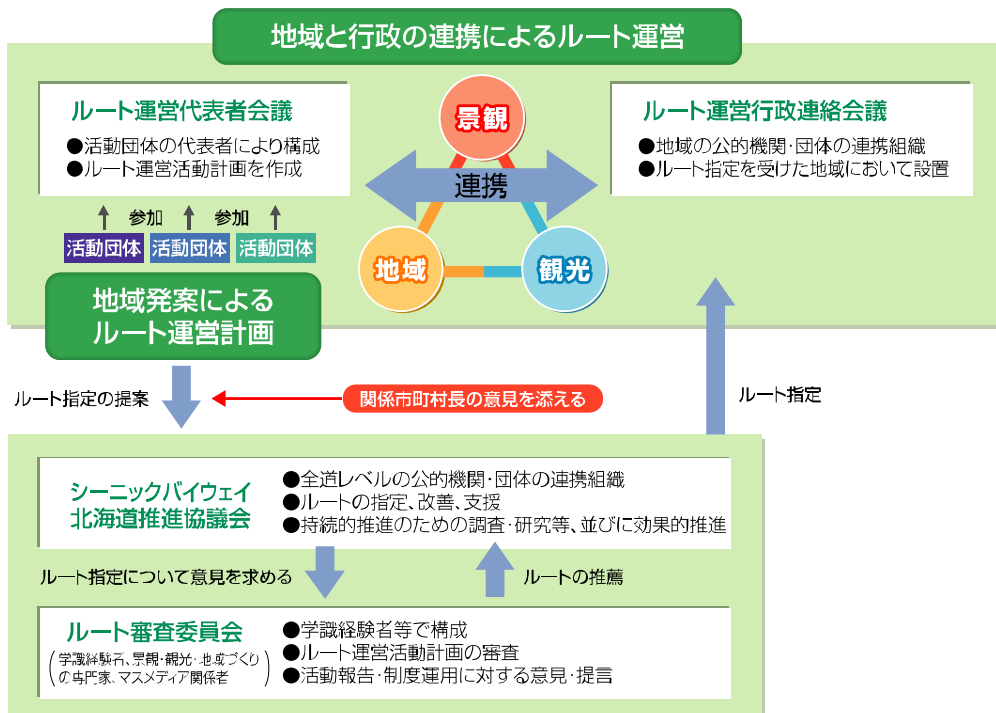
- シーニックバイウェイ北海道推進協議会は、シーニックバイウェイ北海道制度の運営を行うための各種決定・改善・支援を行います。
- 全道レベルでの公的機関・団体との組織連携を図りながらシーニックバイウェイルート・候補ルートの指定を行います。
- その後、決定したルートを持続的、効果的に促進させていくための調査・研究を行います。

シーニックバイウェイ北海道推進協議会の構成団体・機関

北海道商工会議所連合会、北海道経済連合会、北海道商工会連合会、北海道観光振興機構、日本観光振興協会北海道支部、日本旅行業協会北海道支部、北海道農業協同組合中央会、北海道林業協会、日本自動車連盟北海道本部、北海道市長会、北海道町村会、北海道、林野庁北海道森林管理局、経済産業省北海道経済産業局、環境省北海道地方環境事務所、国土交通省北海道運輸局、国土交通省北海道開発局（事務局）

ルート指定までの流れ

シーニックバイウェイ北海道では、地域で組織されたルート運営代表者会議が、ルート運営活動計画を作成し、シーニックバイウェイルートまたは、候補ルートのどちらかを選択して、ルートの提案を行います。提案されたルートは、審査委員会の意見を踏まえて、シーニックバイウェイ北海道推進協議会がシーニックバイウェイルートとして指定、もしくは候補ルートとして指定します。



シーニックバイウェイ北海道導入の経緯

- 平成13年8月 平成14年度国土交通省重点施策として公表
- 平成15年2月 「北海道におけるシーニックバイウェイ制度導入モデル検討委員会」設置
- 平成15年4～7月 モデルルートの指定・活動団体の募集・認定
- 7月～ モデルルートにおける活動の実施
- 平成17年2月 検討委員会が報告をとりまとめ
- 3月 シーニックバイウェイ北海道推進協議会設立
- 平成17年度～ 本格導入

▼ シーニックバイウェイ北海道推進協議会ホームページ

http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_doro/sbh/

参 考

シーニックバイウェイ北海道推進協議会構成員

(会 長)	北海道商工会議所連合会会頭	高向 巖
	北海道経済連合会会長	近藤 龍夫
	北海道商工会連合会会長	荒尾 孝司
	北海道観光振興機構会長	坂本 眞一
	日本観光振興協会北海道支部支部長	坂本 眞一
	日本旅行業協会北海道支部支部長	古田 和吉
	北海道農業協同組合中央会会長	飛田 稔章
	北海道林業協会会長	村上 守義
	日本自動車連盟北海道本部本部長	相茶 俊介
	北海道市長会会長	田岡 克介
	北海道町村会会長	寺島 光一郎
	北海道知事	高橋 はるみ
	林野庁北海道森林管理局局長	津元 頼光
	経済産業省北海道経済産業局局長	増山 壽一
	環境省北海道地方環境事務所所長	出江 俊夫
	国土交通省北海道運輸局局長	西川 健
(副会長)	国土交通省北海道開発局局長	関 博之
(※)	北海道大学名誉教授	小林 英嗣

※ シーニックバイウェイ北海道 ルート審査委員会 委員長

(平成 25 年 6 月 1 日現在)